

# 「ている」「ていた」の学習者の使用状況 —学習者コーパスを用いて—

江 田 すみれ

## 第1章 問題提起

### 1 はじめに

江田（2013）は会話・新書のコーパスを用いて、異なるジャンルのテキストにおけるアスペクトの現れ方を述べている。会話コーパス、新書コーパスでは「ている」「ていた」はいくつかの点でそれぞれ特徴が見られた。その後、学習者コーパスが公開されるようになり、江田（2013）で述べたことが学習者にとって意味のある指摘であったかどうかを検証できる環境が整いつつある。そこで、本稿では江田（2013）でとりあげた「ている」「ていた」の問題点について、学習者コーパスを用いて、学習者がどのように「ている」「ていた」を使っているかを調査してみることとした。

### 2 江田（2013）で取り上げた問題点

江田（2013）では、異なるジャンルのテキストとして会話と新書を資料とした。会話の表現は学習者が十分に使いこなせるようになりたいと希望するものであり、新書は大学で学ぶ学習者が最初に読むことになる参考書の一つと想像できるテキストであるためである。これらのテキスト中に使われている表現方法は身につけることが必要であろう。

なお、記述にあたっての用語は、非過去形を「る」、過去形を「た」と表現し、そのほか「ている」「ていた」も用いる。また、本稿では新書について科学的テキストと表現することもある。

#### 2.1 会話と新書でのテンス

科学的なテキストで最も多いテンスは「る」である。新書では、過去の事例や実験などを述べるときは「た」を用いる。一方、そこから導き出される結論や一般的な事象・現象、筆者の考えは「る」で表現される。そして先行研究を引用する際、過去を現在と関係のあるものとして表現するため、効力持続の「ている」を用いる。

会話は話し手と聞き手のいる現在を基本とし、現在・過去・未来を表現する。

小説は基本的なテンスが「た」であり、「た」はひとつ事態の開始から終了までを表し、「た」「た」と書くことにより事柄の連続を表現するが、高橋（1985）はこの「た」をまるごとの事態と表現している。この「た」は過去というわけではない（工藤1995）。

以上のように、会話・小説・科学的なテキストはそれぞれが違うテンス形式を持っている。

## 2.2 「ている」の用法

江田（2013）は「ている」の用法を運動短期・運動長期・結果状態・効力持続・性状・完了と7つに分類した。

「運動短期」は日常的な動作・作用を表すのに対し、「運動長期」は会話では仕事関係の内容、新書では自然現象や社会現象あるいは思想など、長期にわたる継続を表し、語彙も複雑で、大学生はこれを意識的に学ぶ必要があることがわかった。

効力持続の「ている」は過去に起こった出来事が現在に関係し、影響が残ることである。残る影響によって「経験」「属性」「記録」などの意味を表す場合もある。一方、未来・過去を基準時とし、それ以前にある事態が発生したことを表現する場合は「完了」とする。これは、基準時が現在の「ている」に関しては「効力」の存在が捉えられるが、「完了」の用法では「ている」「ていた」には必ずしも「効力」があるとは言えないためである。基準時が現在の完了は「た」で表現される。

## 2.3 会話と新書における効力持続・運動長期

「効力持続」の「ている」は会話の中で、過去を現在と関係させて述べる役割を果たしている。場合によっては一種の配慮表現としても働く。

新書において「効力持続」は先行研究の引用の役割を果たす。また、「運動長期」と「効力持続」は、「話題提供」「結論」を表現する機能を持つ。

## 2.4 「ていた」

「ていた」は「ている」のように現在を設定時点とするという前提が成立しないので、文脈あるいは状況によって基準時間を示す、あるいは時間幅を示す必要がある。

「ていた」には「ている」にはない「発見」「完了」の用法がある。

「完了」は、「ていた」節で表現されている状況と「た」節で表現される事態の間に状況の変化が示される必要がある。「ていた」節から当然考えられる事態を「た」節で表現した場合は許容度が低くなる。また、「ていた」節と「た」節の間には時間的な切れ目が存在する。

以上のような内容を述べた。このようなアスペクトの知識を学習者がどの程度身につけているか、学習者コーパスの例を見て検討したい。

# 第2章 学習者による「ている」の使用状況

## 1 調査方法

学習者の使用状況を以下のコーパスを用いて確認する。

今回は『日本語学習者作文コーパス』、『多言語の日本語学習者横断コーパス（I-JAS）』を使用した。

『日本語学習者作文コーパス』（以後作文コーパス）は中国語母語・韓国語母語の二言語の学習

者による二つのテーマの作文データ（「外国語が上手になる方法について」（192名分）と「インターネット時代に新聞や雑誌は必要か」（112名分））が収録されている。レベルは初級から上級で、人数は304名、総語数は113,554語である。（『日本語学習者作文コーパス』使い方）。

『多言語の日本語学習者横断コーパス（I-JAS）』は2018年に第三次データまで公開され、12言語の異なった母語の海外における日本語学習者、国内の教室環境の学習者、自然習得者、日本語母語話者合計660名分の発話スクリプトと音声および作文（任意参加）が収録されているとのことである。

表1 I-JAS収集データとタスク記号

	タスクの種類	タスク記号	データの種類
対面調査	ストーリーテリング（2タスク）	ST1、ST2	発話データ
	対話	I	
	ロールプレイ（2タスク）	RP1、RP2	
	絵描写	D	
	ストーリーライティング（2タスク）	SW1、SW2	作文データ

（I-JAS調査概要より）

データは、6種類12タスクで構成されており、発話については4種類ある。ストーリーテリングは連続するコマの絵を見てそれを言葉で表現するタスクである。ストーリーテリング1（ST1）はピクニックのサンドイッチを犬に食べられる話、ストーリーテリング2（ST2）は鍵を忘れたケンがおまわりさんにつかまりそうになる話、対話（I）はインタビューである。ロールプレイは2タスクあり、ロールプレイ1（RP1）はアルバイトの日数を減らしてもらおう交渉、ロールプレイ2（RP2）は店長から調理の仕事をしてくれないかと頼まれて断るタスクである。絵描写（D）は絵を言葉で表現するタスクである。作文については2種類あり、ストーリーライティング（SW1）（SW2）はST1、ST2を文章で書くタスクである。（I-JAS 研究詳細）。

表2 「ている」の出現数・使用数

	総 数	「ている」のみ
ST1	437	274
ST2	884	423
SW1	628	380
SW2	816	392
RP1	444	402
RP2	304	256
D	2,299	400
作文	787	400

本稿では上の参加者のうち、日本語母語話者、自然環境習得者を除いた学習者を対象とした。話し言葉部分では、上のデータのストーリーテリング（ST1・ST2）・ロールプレイ（RP1・RP2）・絵描写（D）、書き言葉ではストーリーライティング（SW1・SW2）を使用した。

I-JASでは、上のタスクについて、中納言で、キーワードは語彙素読み「て」、後ろ共起表現を語彙素「いる」として検索した。中納言を使っただけで、「いる」の活用形である「ていた」、「ていない」の形も現れるが、それらは「ていた」「ていない」の部分で使うため、この節の例文か

らは排除した。

表2は今回調査対象とした「ている」の例である。それぞれの出現例から「ていない」「ていた」「ていなかった」を省くと、表2の数字になった。Dは2,299例、作文コーパスは787例出現したので、そのうち、他の使用例と同等の数ということで各400例を採用した。

## 2 学習者の「ている」の使用状況

### 2.1 正用誤用の割合

表3のように、I-JASでは、学習者はRP、D、SW2は85%程度あるいはそれ以上、ST、SW1も75%から80%程度「ている」が正しく使っていた。タスクの中では作文が最も誤用が多かった。

誤用の内容は自他の違い、「た」「る」と「ている」の混同、文型の理解の不十分さなどによるものであった。作文は「思う」と「思っている」の誤用が多かった。

ST・SWは時間とともに移り変わる状況を述べていくタスクのため、「た」「ている」「ていた」のどれを使うかで誤用が出た。

文中の<C>は調査者、<K>は被験者である。(JJE27 RP1 7190)のように3種の記号が書いてある例はI-JASである。I-JASの最初のJなどは母語、調査地、学習者の番号が続いている。そしてタスクと行番号が書いてある(I-JAS研究詳細)。(CG046)(KG087)のようにIDがCあるいはKで始まり学習者番号がついている例は作文コーパスの例である。

表3 学習者の「ている」の使用状況

	正	誤	合 計
ST1	209	65	274
	76.3%	23.7%	100.0%
ST2	338	85	423
	79.9%	20.1%	100.0%
SW1	303	77	380
	79.7%	20.3%	100.0%
SW2	331	61	392
	84.4%	15.6%	100.0%
RP1	381	21	402
	94.8%	5.2%	100.0%
RP2	220	36	256
	85.9%	14.1%	100.0%
D	346	54	400
	86.5%	13.5%	100.0%
作 文	262	138	400
	65.5%	34.5%	100.0%
合 計	2,390	537	2,927
割 合	81.7%	18.3%	100.0%

### 2.2 意味的な使用状況

表4は「ている」の用法を運動短期・運動長期・結果状態・効力持続・性状に分類したものである。誤用は誤用とまとめた。

タスクによって「ている」のよく使われる意味が異なるのが見られる。

表4 学習者の「ている」の意味的な状況

	運動短期	運動長期	結果状態	繰り返し	効力持続	性 状	誤 用	合 計
ST1	166	18	25	0	0	0	65	274
	60.6%	6.6%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	23.7%	100.0%
ST2	303	11	22	2	0	0	85	423
	71.6%	2.6%	5.2%	0.5%	0.0%	0.0%	20.1%	100.0%
SW1	240	27	35	1	0	0	77	380
	63.2%	7.1%	9.2%	0.3%	0.0%	0.0%	20.3%	100.0%
SW2	282	16	32	1	0	0	61	392
	71.9%	4.1%	8.2%	0.3%	0.0%	0.0%	15.6%	100.0%
RP1	35	162	49	132	1	2	21	402
	8.7%	40.3%	12.2%	32.8%	0.2%	0.5%	5.2%	100.0%
RP2	15	140	34	17	0	14	36	256
	5.9%	54.7%	13.3%	6.6%	0.0%	5.5%	14.1%	100.0%
D	178	10	151	0	0	7	54	400
	44.5%	2.5%	37.8%	0.0%	0.0%	1.8%	13.5%	100.0%
作文	8	99	104	14	4	33	138	400
	2.0%	24.8%	26.0%	3.5%	1.0%	8.3%	34.5%	100.0%

絵を見ながら出来事を時系列的に描写するST・SWは日常的な動作の継続を表す運動短期の用法が多い。アルバイトの日数を週3回から週2回に減らしてもらうよう交渉するRP1、あるいはアルバイトの内容を変えてくれと頼まれて断るRP2では「アルバイトをしている」「働いている」などの運動長期が多く、RP1では「週3回～ている」「よく～ている」などの繰り返しが多めに多い。Dは絵を描写するタスクなので運動短期と結果状態が多く、作文は運動長期・結果状態が多かったが、運動短期は少ない。

### 2.3 運動長期の使われ方

江田（2013）では「ている」の特色ある用法として運動長期、効力持続をとりあげた。それらの用法が学習者によってどのように使われているか、見てみよう。

運動長期はRPと作文で割合が高いが、使用している語の範囲は狭い。今回出現した運動長期で使われた動詞を見ると、「犬を飼う」（ST・SW）「アルバイトを探す」「卒論を準備する」「働く」や「（卒論の準備・アルバイト・仕事・勉強）をする」（RP）など、限られた語の範囲で述べており、使用する語の幅は広いとは言えない。

### 2.4 効力持続の使われ方

効力持続は使えていない。効力持続と読めるものはRPで1例、作文で4例だけである。効力持続と読める文を以下にあげる。

- (1) <K>ずっとその店が働いてるのですが<C><うん><K>、まあお客さんのことはその仕事のことでよくわかるんです<C><うん><K>あその書いています<うん>だから、普通は何曜日何曜日が忙しい自分で、大体がわかります、(JJE27 RP1 7190)
- (2) それは昔から中国の外国語の勉強総方針だと聞いている。(CG046)

(1) は自分がどんな仕事をしたか、これまでのことを書いている、つまり記録していると説明しているように読めるため、効力持続と判断した。(2) は「聞いたことがある」「以前から聞いた」と読める。これらは積極的に効力持続の文を探そうとすれば、該当する可能性がある。以上のように考えると、上の2例文は効力持続と考えることができる。動詞は「書く」「聞く」などのよく使う動詞である。これらは、どちらの例も、現在書いている、現在聞いている、などの意味にならないため、効力持続と振り分けた。しかし、学習者が効力持続の意味や効果を知っていてこれらの文を作ったのかどうかは定かではない。効力持続という表現の意味を整理して伝える必要があるだろう。

## 2.5 性状の使われ方

母語話者の自然科学でかなりよく使われていた性状（江田2013 4章2.2.1）は、あまり使うことができていない。以下は出現した例である。

- (3) <K>あのねあー私は、卒業に一、あー近くていま卒業に控えています<うん>あー卒業論文なんか、準備一しなければなりません (CCM36 RP1 4580)
- (4) それに一、とても一部屋の中は静かで一、なんか変な雰囲気が、しています (CCT31 D 610)

これらも、「ている」が単純に状態を表すことができると知っていてこれらの表現を使ったというより、たまたまそれが性状に読めたと理解したほうがいいかもしれない。そのほかには「木が立っています」「いえがゴタゴタしています」という表現が使われていたが、「ゴタゴタしている」はDで汚くなったの意味で使っている可能性もある。そうすると、結果状態であり、性状としてはほとんど使えていないことになる。

一般的に語彙力がなく、表現の幅が広くないことがわかる。

## 3 誤用について

高梨（2014）が学習者は助詞・自他動詞・敬語については難しいと認識するが、「ている」「ていた」は「あまり意識されないが、実は運用に問題が生じやすい項目」（p.30）としている。その指摘が学習者の誤用となって表れている。高梨（2014）は、説明も練習もなく、ただ難易度の高い「テイル」形が会話・例文に無意識的に提示されている現状を問題視している（p.34）。本稿はそういった項目として、効力持続、未来にむけての効力持続、語彙の難易度の高い運動長期・性状などがあると考え。1章2.1で述べたまるごとの事態や論述文での「る」の使い方、指導することにより、学習者は使いこなしていくであろうと考えられる。

誤用はタスクによって違いが見られる。

表5によると学習者が「ている」と混乱しやすいものは「た」「る」そして動詞の自他の問題である。

そして、タスクの種類によって混乱が起こりやすい形に傾向が見られる。ST、SWのように、物語的に時間の流れに沿って事柄を述べていく文章では「ている」と「た」の混同が問題になる。描写をするDでは結果状態の文が関係するため、動詞の自他の問題が大きい。論述文である作文コーパスは一般化して述べる非過去形「る」との混同の誤りが多い。順に見ていこう。

表5 学習者の誤用の種類

	た	て	る	自 他	受 身	その他	合 計
ST1	46	6	1	2	0	10	65
ST2	67	16	1	0	0	1	85
SW1	52	7	4	1	0	13	77
SW2	47	12	2	0	0	0	61
RP1	1	0	15	1	0	4	21
RP2	3	0	33	0	0	0	36
D	0	1	1	30	2	20	54
作 文	10	1	101	4	2	20	138
合 計	226	43	158	38	4	68	537
割 合	42.1%	8.0%	29.4%	7.1%	0.7%	12.7%	100.0%

### 3.1 テキストによるテンスの書き分け

第1章で述べたように、日本語のテンスはテキストによって使い方が異なる。物語、小説、歴史を述べる文脈など、時系列に沿って物事を述べるテキストでは「た」、論述文では「る」が基本になる。目の前の絵を描写する場合は「ている」が基本のアスペクトになる。そのような知識を我々は与えているであろうか。

ST、SWについては、学習者は、物語を述べるときは基本テンスを「た」にする、ということを認識する必要がある。このようなタスクに慣れておらず目の前に絵があるため、当該の絵の内容をそれぞれ別々に「る」「ている」の形で述べる学習者が多数いる。

- (5) えー、え三番目ーに、えー、えふえー、ケンとマリエーは、えー遠足をーします、ピクニックをーしています #えー次にーえー、い、マリ、マリとーケン、はー、えーバスケットバスケット、の中、に、見る (SES37 ST1 1270)
- (6) バスケットを開けます。 #犬はサンドイッチとりんごを食べます。 #そして、ケンさんとマリさんは庭へ行きます。 #バスケットを持っています。 #後で、ケンさんとマリさんはバスケットを開けます。 #犬は全部の食べ物が食べました！ (SES17 SW1 850 70)

Dのタスクと同様、目の前の絵を述べることを要求されていると考え、その絵の中で登場人物が何を「しているか」を述べている。時系列的に物語を述べる場合は「た」と指示するだけでこれらの問題の大半は解決できる。

### 3.2 まるごとの事態を表現する「た」

- (7) ケンとマリは大丈夫だと思います。＃そのままに外にいきます、目的地に到着とき犬がバスケットに逃げています。＃その中の食べ物には犬に全部食べ切ります。(犬がバスケットから逃げていきました、食べられました)(CCM53 SW1 790)
- (8) マリはパンを切ってケンにはサンドイッチをバスケットに入れています。＃部屋の中に、犬もいます。＃マリとケンは地図を見るうち、犬はバスケットに入れています(入りました)(FFR24 SW1 140)
- (9) 公園に行きました。＃公園に着いたら、ちょっとお腹が空いたから、サンドイッチを食べようとしてました。バスケットを開けている時、犬が跳んで来ました。(開けた時)(CCM10 SW1 930)

(7) (8) はどちらも一つの事態が終わったことを「た」で表現するべきである。(7) は犬が逃げている状態としてではなく、「逃げていきました」と出来事が終わったという形で表現すると正しくなる。(8) も「入れています」ではなく、「入りました」の形で表現する。つまり、ここに挙げた例文は皆、事態の終了を意味するように表現する必要がある。まるごとの事態(高橋1985:13)を表現するには「た」を用い、「た」「た」と続けることによって物語を前へ進める、という用法を意識する必要があるのである。

学習者は(9)については「開けている最中に犬が逃げた」と理解したのかもしれない。あるいは「あけた後の状態」を表現しようとしたのかもしれない。しかし、一般的に考えると、ふたをあけている最中でなく、あけた後で犬が飛び出すであろう。従属節内の述語のテンスについては、日本語記述文法研究会(2007)は従属節内の「る」は主節の事態より後、「た」は主節の事態より先に事態が起こったことを表す(p.153)と述べている。この知識が十分に活用できていない例であろう。

初級では、「た」は、初めは過去と教える(『みんなの日本語』第4課教え方の手引き 過去 p.52)。その後、複文を学ぶ課で主節と従属節の先後関係あるいは従属節の完了未完了という形で「る」と「た」を学ぶ(例『みんなの日本語』23課 従属節の事態が未完了の場合は「る」、完了の場合は「た」 pp.193-195)。また、作文の時間に日記などの形で出来事を書かせるタスクはよくある(『大地』19課 タスク日記p.130)。しかし、その時、「た」を使うことが物事を先へ進めることになると明示的に説明しているだろうか。事態をまるごと全体として捉えてその事態の終了を「た」で表現すると明確に説明している教科書は少ないのではないだろうか。物語を語る時は「た」は過去ではなく、事態の終わりを示し、「た」が事態を前へ進める役割を持つ(高橋1985、工藤1995)ということを明確に伝える必要がある。

そして、このような事態が連続すると「て」になる。



- (10) 見ているときに、太郎という犬はサンドイッチがあるバスケットに隠れてしまいました。#そして、ケンとマリはバスケットを持っています公園へ散歩に行きました。(持って)(EAU05 SW1 370)。
- (11) 地図を、見ている間に、子犬、隣に犬、隣に犬、子犬ちゃんは、えバスケットには、入っていてパンを食べてしまったんです#二人は気が付かないでそのまま、バスケットを持って行って、(入って)(JJE15 ST1 530)

事態の連続の場合も、基本は一つの事態が起こって次の事態へ進むということなので、「ている」ではなく「た」つまり「て」になる。

### 3.3 連体修飾節の中での「た」と「ている」

文末、節末では「ている」で表現できる語であっても連体修飾節内では「た」になる場合がある。結果状態の場合である。

- (12) #ケンとマリはやっと目的地に到着して、喜んでバスケットの蓋を開けてみると、満足している犬は中から出てきて、リングとかサンドイッチとか全部ぼろぼろになってしまいました。(満足した犬が)(CCT39 SW1 1120)
- (13) #ピクニック場所は着いた時、バスケットを開ける時、持っている果物とサンドイッチを犬に食べられました。(持って行ったサンドイッチ)(JJE60 SW1 590)

日本語記述文法研究会(2007)では、格成分名詞修飾節内の述語は「主文事態の成立時を基準として以前の事態」を表す時「た」の形をとる(p.171)としている。サンドイッチは持って行った物なので、ここでは「た」になる。

### 3.4 「る」

第1章の2で述べたように、「る」は論述文でよく使われ、時に関わらない事柄、属性、筆者の判断などを表現する。

今回の資料のうち、論述文的な文章は作文コーパスであり、やはりこれが最も「る」との間の誤用が多かった。作文コーパス138例の誤用例のうち101例が「る」との混同であった。

一般化して述べる場合は「る」を使うのであるが、学習者は以下のような文を作る。

- (14) 大切なのはコミュニケーションすること。日本語を勉強している以上、日本人と交流すべきだ。(する以上)(CG042)
- (15) しかし、趣味は先生じゃない、寿することもあるって、特にいい趣味だ。確しい心態を持っているは外国語勉強することについて、大重要だ。(持つこと)(CG056)

- (14) は「勉強している以上」でも許容という判断を持つ人もあるであろう。会話でなら「今

勉強して、これからも頑張る」のような文も使うであろう。しかし、この文章はいかに外国語を上達させるか、という目的で書かれている論述文である。その場合、自分が勉強している、という書き方でなく、より一般的に、外国語を勉強する以上、という書き方をした方が目的になっていると言えよう。(15)の「持っている」は、一般論として「強い意志を持つことは外国語を勉強することについて重要だ」がいいであろう。「持っている」「知っている」は初級の最初に「持つ」でなく「持っている」「知っている」の形で導入されるためか、中級以降になっても「持つ」「持った」などの活用形が使えない傾向が見られるとのことである<sup>(1)</sup>。「持つ」「知る」に関しては、この点も考慮して多くの活用形を積極的に使わせるよう、教師は意識する必要があるであろう。

上の例のように、論述文では「る」を用いるほうが一般化して述べる姿勢が明確になり、よりふさわしい表現となる。論述文的に書くための指導を授業に取り入れることを提案したい。

「る」は属性も表現する。日本語記述文法研究会(2007:130)は「非過去形には、ある主体が性質や能力をもっていることを表す用法がある。このとき、非過去形は、特定の時点に位置づけることをせず、恒常的な事実を表す」と述べている。

(16) いま日本語を勉強している人が多くなりました。(勉強する人)(CG050)

(17) 読者達にとっては担任して責任を持っている会社がどっちかがわかるので安心である。(CG111)

(16)(17)のような例がこれにあたる。動的な述語であっても「る」で表現することによって恒常的にその行動をする＝そのような属性を持つ、ということが表現される。このような「る」にも学習者の意識を向けさせる指導が必要であろう。

作文コーパスで最も多かった「る」との混同は「思う」と「思っている」であった。

「思う」について日本語記述文法研究会(2003)は3つの用法をあげている。

(18) この本はきっと売れると思う。

(19) たしか、あのときは、鈴木もそこにいたと思います。

(20) あの人は身勝手だと思う。(日本語記述文法研究会2003:184)

(18)は「未知のことに対して話し手なりの判断を示す用法」、(19)は「話し手の記憶の中での不確かさを表す用法」、(20)は「引用節に示した判断・意見が話し手の個人的な主張であることを明示する用法」(p.184)である。

これに対して「思っている」は話し手以外の思考を表すだけでなく、

(21) 先生は私が2年生だと思っている。(日本語記述文法研究会2003:185)

(21) のように「その思考主体（他者）の認識が誤りであるということが意味される」。あるいは「引用節の内容が偽であることを知りつつ、そのように見なしているという意味で」（p.185）使うことがある。

「思う」「思っている」両方を使うことができる場合も、認識・態度に差があるとして、

(22) 私は、山本君もこの仕事に協力してくれると思う。

(23) 私は、山本君もこの仕事に協力してくれると思っている。

（日本語記述文法研究会2003：185）

(22) は話者が判断を下しているのに対し、(23) は判断を下すのではなく、「それを信じていたり期待していたりする」（p.185）ことが意味されるとしている。

「思う」には明確な判断、不確かさ、個人的な主張といった不確かさの程度の違う用法が含まれており、「思っている」にもその判断が誤りであるとわかっているという用法がある。

作文コーパスの以下のような例文ではどちらも筆者の主張を述べている。

(24) インターネットは図書館みたい、最近のニュースだけ見付けるではなく、歴史がある資料もさがしやすいだと思っている。（思う）（CG104）

(25) 単語が多くに覚えている、機会あれば、外国人が話し合う。その二つのことをするなら、外国語がうまくなると思っている。（CG019）

論述文では「引用節に示した判断・意見が話し手の個人的な主張であることを明示する用法」である「思う」の方が一般的な判断ということを示しやすい。「思う」の方が適当と判断されるであろう。そして、「思っている」にするとその情報は偽のようだが、期待している、信じているという意味が表面化しやすくなる。以上の点で、論述文では「思っている」でなく「思う」を使う方が適当と言えるであろう。

「る」は習慣・繰り返しとしても使われる。この表現方法は書き言葉だけにあるのではなく、話し言葉でも同様に使われる。

(26) <K>疲れているので、あまり勉強する力が<C>〈うんうんうん〉<K>ないので、あーそのためには<C>〈うん〉<K>、あの、はー、働いているの〈うん〉日は〈うん〉、できるだけ少なくするように〈うん〉、あのお願いす#<C>だいじょぶだいじょぶ、それならいいいい、（働く日）（JJC40 RP1 4440）

(26) を「働いている日」にすると現在働いている日になる。これから繰り返しとして週に何日働くか、の相談なので、「働く日」になる。

### 3.5 動詞の自他の違い

動詞の自他の違いは、描写のタスクでよく見られた。

- (27) コートは一、だ、誰も一、着ていません#<C>うん、で、電気#<K>電気は一、でん、つつ、あいる、あいてい、点けています#<C>窓#<K>窓は一、〈うん〉えーと一、や、う、割れています#< (CCT04 D 2520)
- (28) 外に、えー力を入れて、えーオープンします#<C>ううん、ドアは今これどうですかこれ? #<K>あ肉屋のドアは閉めています#<C>うん#<K>でも、隣の喫茶店のドアが開けています# (CCT17 D 6020 390)
- (29) サンドイッチが出来上がった後、マリはサンドイッチをバスケットに入れました。#バスケットが開けていますから、犬がそこに入りました。(CCM05 SW1 540)

(27) は3つの動詞が使われている。「着ている」「割れている」はできているが、電気は「あいている」か「つけている」が迷った結果、「つけている」を選んでいる。(28) は2つの動詞を使い、「あいている」「しまっている」を使うべきところで「あけている」「しめている」を使っている。(29) は「サンドイッチを入れました」「犬が入りました」はできているが「バスケットがあいている」を「あけている」としている。中石(2005)が学習者の自他動詞の選択は、語によって自動詞他動詞の一方に固定されるなどいくつかの傾向があると述べているが<sup>(2)</sup>、そのような結果が現れたのかもしれない。

アスペクトと同時に、自他の問題も大きな問題と言える。

### 4. まとめ

以上見てきたように、学習者の「ている」の使用は、以下のような特徴が見られた。

母語話者の使用(江田2013)と同様に、述べる内容によって「ている」の意味的な用法でよく使うものは違っている。

母語話者との違いは、効力持続・性状があまり使えていないこと、運動長期は使用する語の範囲が狭いことである。

作文を除いて、多くのタスクで誤用の割合は5～25%程度であった。作文コーパスは35%ほどの誤用が見られた。

誤用の性質はタスクによって異なる。物語的なテキストでは「ている」と「た」、描写のテキストでは自他の混同、論述文では「ている」と「る」の混同が問題であった。

「た」は過去だけでなく、まるごとの事態の終了という用法を意識させる必要がある。

「る」は、論述文内で多い、一般化して述べる用法、属性を描写する用法の教育が必要である。

### 注

(1) 黒沢晶子氏(山形大学)、堀恵子氏(東洋大学・筑波大学)の指摘である。

(2) 中石(2005)では学習者の自他動詞の使用は①いずれの活用形においても自動詞のみを使用する、②いずれの活用形においても他動詞のみを使用する、③活用形によって使用が

固定している、④ある活用形において自動詞、他動詞どちらも使用している、などの傾向が見られたと報告している (pp.25-30)。

### 第3章 学習者の「ていた」の使用状況

#### 1 学習者コーパス

学習者コーパスを用いて学習者の使用例を集め、分析した。

話し言葉はKYコーパス、I-JASのストーリーテリング1・2 (ST1・ST2)、状況の描写 (D)、ロールプレイ1・2 (RP1・RP2)、インタビュー (I)、書き言葉は学習者作文コーパス、I-JASのストーリーライティング1・2 (SW1、SW2) を用いた。

KYコーパスは、90人分のOPIテープを文字化した言語資料である。中国語、英語、韓国語母語話者それぞれ30人ずつの発話が収録されている。OPIの判定結果別の内訳は、それぞれ、初級5人、中級10人、上級10人、超級5人ずつとなっている (タグ付きKYコーパストップページ)。

それぞれ、文字列検索で「ていた」「てた」「ていました」を検索し、不要なデータを削除して用いた。

それぞれのタスクの分量が出ていないので明確なことは言えないが、タスクによって「ていた」が使いやすいものとあまり使わずに済むものがある。

#### 2 タスクによる使用数の異なり

使用数の多かったタスクはインタビュー、SW2、KYコーパスであった。インタビューは子どものころの誕生日のこと、学校時代の思い出など過去のことを述べる活動があるため、SW2は「ケンさんが家に帰った時、マリさんは寝ていた」などのように、その場の状況を述べる必要があるため、「ていた」が多い。一方、絵を見て目の前にある状況を述べるDでは過去形を使うと、(30) のように不適当な例となる。

表6 学習者による「ていた」の使用数

	コーパス	合 計
I	ST1 ピクニック	42
J	ST2 はしご	66
A	D 状況の描写	17
S	RP1 アルバイト変更依頼	14
	RP2 アルバイト変更断り	5
	インタビュー	208
	SW1 ピクニック	80
	SW2 はしご	108
KYコーパス		116
作文コーパス		61
合計		717

(30) ×バス停があります#肉屋と、カフェ店があります#後、倒れていた木が一個あります。

(CCT10 D 2780 310)

アルバイトの日数を減らしてもらうよう交渉する（RP1）、アルバイトで調理の仕事をしてもらえないかと頼まれ断る（RP2）という、これからどうするか交渉したり相談したりするRPでは「ていた」は少ない。ST1とSW1、ST2とSW2はそれぞれ同じ内容を表現しているはずであるが、使用数はST1が42例に対しSW1では80例、ST2で66例に対しSW2では108例と、どちらも、書くタスクの方が「ていた」の使用が多かった。

### 3 タスクと正誤の関係

次にタスクと正誤の関係を見てみよう（表7）。全体で見ると、31%ほどが誤用となっており、全体の誤用率が18%であった「ている」より誤用率が少々高いようである（2章2.1参照）。

誤用率が高いのはD（描写）、RP、作文であった。

Dでは誤用率が非常に高い。データの数が少ないので過度に一般化するのは危険であろうが、傾向として見ておこう。Dでは絵を見てその情景を描写するタスクが与えられているが、以下のような誤用が見られた。

(31) ×あの一、あーお茶が入っていたところでしたから、あの一、皿ーんー、おも落ち落ちて壊れてしまいました（入った）（SES16 D 1760 160）

絵を述べるだけのタスクなので、時間的な変化は考えにくい。Dは前後の絵があるわけではなく、状況が変化したとは考えられず、誤用とした。

RP1はアルバイトの日数を減らしてくださいと店長にお願いするというタスクであった。

表7 学習者による「ていた」の使用状況 正誤の関係

	コーパス	正	誤	計
I	ST1・ST2	71	37	108
		65.7%	34.3%	100.0%
J	SW1・SW2	129	59	188
		68.6%	31.4%	100.0%
A	RP1・RP2	9	10	19
		47.4%	52.6%	100.0%
S	D	4	13	17
		23.5%	76.5%	100.0%
	I	151	57	208
		72.6%	27.4%	100.0%
KYコーパス		97	19	116
		83.6%	16.4%	100.0%
作文コーパス		34	27	61
		55.7%	44.3%	100.0%
合　　計		495	222	717
		69.0%	31.0%	100.0%

- (32) ×うーん、友達に、頼んで、あー、私の代わりに、友達が、仕事を、仕事してもらっていたら、どうですか？（仕事してもらったら）（TTH04 RP1 4270 300）

自分がアルバイトの日数を減らす代わりに友人に働いてもらうように頼むという状況である。仮定の話なので過去の状態を使う必要はなく、誤用となる。

作文コーパスでは「効果的な外国語学習法」「インターネット時代に新聞や雑誌は必要か」というテーマで論述文を書いているが、このテーマでは過去の状態を述べる必要性が低く、「ていた」を使うと誤用になったのであろう。

- (33) ×ネットの便利性はもうよく分かっていたが、だんだん新聞などは必要だと思ってなった。（わかったが）（CG107）

逆に、インタビューの中で過去のことを話してくださいと要求される I では誤用率は比較的低い。

- (34) やはり、プレッシャーがある、プレッシャーが溜まっていたからだと思います、その時は # < C > うんうんうんうん、なるほどね、（CCM15 I 51730 4600）

以上見たように、過去のことを述べる必要がないタスクでは「ていた」の誤用の割合は高くなる傾向がある。

#### 4 節間の関係による分類

江田（2013）第7章3.2.4の表9にならい、継続過去、状態過去、繰り返し過去、同時、完了、誤用と分類した。継続過去、状態過去、繰り返し過去は「ていた」が他の過去の節と時間的な先後関係を持たないもの、あるいは「ていた」が現在や未来と関わりを持つものである。同時は「ていた」の示す事態の継続と同じ時に一定の状態が存在するもの（例35）、または事態の継続の期間中に別の事態が発生するもの（例36）である。

- (35) 数学の先生は、厳しい < C > 〈うん〉 < K >、厳しかった、が、あの知識が**いっぱい持っていた**ので 〈うん〉、（中略）、それで試験の時は 〈うん〉 簡単だった（JJC40I 29260 1060）

- (36) あのマリさんとケンさんが、あのどこに行くか地図を**見ていた**時、んー犬、犬が、こっそりとバスケットに入り込んでしま、しまって、（EUS02 ST1 490 30）

完了は「た」で表現される事態以前に、それと関係のある事柄や状態が「ていた」節で表現されるものである。

- (37) 呼びましたが、その時はもう12時になりましたので、マリはもう寝ました。# よく眠っ

ていたので、ケンの声が聞こえなかった。(CCM48 SW2 740 40)

他の節との関係では、完了・同時のように、「ていた」節が他の過去の節と関係のある使い方をしている割合が高いのはST・SWであり、「ていた」節が他の節と関係を持たない、あるいは、現在・未来と関係を持つことが多いのはI・KYである。

表8 学習者の「ていた」の意味・他の節との関係による使用状況

	コーパス	継 続	状 態	繰り返 し	同 時	完 了	誤 用	合 計
I	ST1・ST2	5	2	0	20	44	37	108
		4.6%	1.9%	0.0%	18.5%	40.7%	34.3%	100.0%
J	SW1・SW2	2	0	0	50	77	59	188
		1.1%	0.0%	0.0%	26.6%	41.0%	31.4%	100.0%
A	RP1・RP2	7	2	0	0	0	10	19
		36.8%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	52.6%	100.0%
S	D	3	0	0	0	1	13	17
		17.6%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	76.5%	100.0%
	I	67	32	8	19	25	57	208
		32.2%	15.4%	3.8%	9.1%	12.0%	27.4%	100.0%
KYコーパス		46	18	5	5	23	19	116
		39.7%	15.5%	4.3%	4.3%	19.8%	16.4%	100.0%
作文コーパス		8	10	5	3	8	27	61
		13.1%	16.4%	8.2%	4.9%	13.1%	44.3%	100.0%
合 計		138	64	18	97	178	222	717
		19.2%	8.9%	2.5%	13.5%	24.8%	31.0%	100.0%

## 5 誤用のテンス・アスペクトによる分類

表9は誤用例だけ集め、それぞれのコーパスごとに、訂正した場合「た」「ている」「る」その他のどれに分類されるかで集計したものである。

全体的に「た」との誤用が多く、約65%を占めている。そして「ている」との誤用が20%程度であった。「る」との誤用は全体で見るとそれほど多くないように見えるが、作文だけは誤用の20%ほどを占めている。

以下にそれぞれの誤用について例をあげつつ見ていこう。



表9 「ていた」誤用例のテンス・アスペクトによる分類

	た	ている	る	その他	合計
I-JAS	117	31	16	12	176
割合	66.5%	17.6%	9.1%	6.8%	100.0%
KY	12	4	1	2	19
割合	63.2%	21.1%	5.3%	10.5%	100.0%
作文	14	8	5	0	27
割合	51.9%	29.6%	18.5%	0.0%	100.0%
合計	143	43	22	14	222
割合	64.4%	19.4%	9.9%	6.3%	100.0%

## 6 正用

### 6.1 よく使う動詞のよく使う活用形

よく使う動詞のアスペクトはあまり間違いなく使うことができていた。

(38) マリさんは寝ていたので、ケンさんはどんなに大声で呼んでいても、無駄でした。  
(CCM50 SW2 70 10)

(39) ま、マリさんは寝ていたあー、寝ていた、だからんー、んー、あー、じゃあどうしようかな#あーケンさんはうー、はしご、はしごを見つけ、はしごを見つけた (CCM37-ST2 CCM37 ST2 820 50)

(38) (39) 共に、ケンが家に帰ったらマリさんが寝ていた、という状況を述べている。  
次に「見る」を使った例を見てみよう。

(40) ケンとマリはサンドイッチを作った後、地図を見ました。#ふたりは地図を見ていた時、犬がバスケットに入りましたが、二人はそのことは分かりませんでした。(CCM19 SW1 240 20)

(41) 警官は、ケンを見ま、あ見た#あー、そして、警官は、ケンに、怒っていた#<K>でも、その時マリは起きま、起きた#あ、起きて、窓に、歩いて、き、警官に、説明しました (EAU11 ST2 1010 50)

(40) の「見ていた」は犬がバスケットに入った時のケンとマリの状況を「地図を見ていた」と正しく表している。(41) では「警官が見た」「マリは説明した」と発生した事態の順で述べ、動詞の「た」が事柄がひとつずつ終わって次へ進むことができるという使い方ができている。「見る」については、「た」は終わること、「ていた」は動作の継続という使い分けができているよう

である。しかし、「怒る」は「怒っていた」になっており、ここでは「た」の連続ができていない。(41)のように、「怒る」に関しては、10で述べる使い慣れた形になっている可能性もある。「怒る」「怒らない」「怒った」のような活用ができず、「怒っている」と固まりで覚えている可能性があるのではないか。

以上、よく使う動詞は正しく活用できる可能性を指摘した。

## 6.2 期間中の出来事

ある動作・作用の継続期間中に別の事態が起こるという形は理解しやすいようで、間違いなく使っている例が見られた。

(42) 「私の家です」と伝えましたが、警官はあやしいと思いました。#ところが、警官がケンのIDを確認していたところ、マリが起きて、二階の窓から顔を出しました。#マリは警官に「あの男は夫です」と言いました。(EUS02 SW2 1770 70)

(43) 授業中、インターネットについての話題を討論していた。そして、このような会話があった。(CG111 中国語 中級)

上の(42)(43)は「ていた」が表す期間中に「た」で別の事態が起こったことが表現される。この形は、母語話者の使用中では会話に多少見られる程度で(江田2013 p.120)、それほどよく使われるわけではないが、学習者が楽に使える構文であるということは記憶しておいてもいいようである。

## 7. 「た」の誤用

### 7.1 まるごとの事態

何度も述べてきたことだが、まるごとの事態は「た」で示す。学習者は動作・作用に時間がかかる場合、それをまるごとの事態として表現できず、「ている」「ていた」を使うということがよく起こる。

(44) ×天気がよくて晴れた日でした。#ケンとマリは気持ちよくてゆっくりと散歩していた。#しかし公園に着いて、バスケットを開けた途端、中にいた犬がジャンプして、サンドイッチを持って逃げてしまった(散歩した)(HHG03 SW1 810 50)

(45) ×人は興味があれば考えていたことを行動で移すものだ。(考えたこと)(KG069 韓国語)

(44)は散歩を全体として捉え、「た」で表現する必要がある。学習者は散歩には時間がかかると考えて「ていた」で表現した可能性がある。しかし、事態の連続の表現では、動きの時間の長さに関係なく、一つのことをした、そして次のことをした、のように描写しなければならない。(45)は「考えたこと」のように「考える」こと全体を一つの事態として表現する必要がある。

そして、まるごとの事態としての表現は結果動詞の場合も同様である。

- (46) ×ピクニックのスケジュールをはい、作りました#で、その後では、一匹の、ペット、あー彼ら達が飼っていたペットの犬ちゃんがあの不注意に、彼らのバスケットの中に入ってました (入りました) (CCT15 ST1 750 50)
- (47) ×入るつもりだ。#それを警官に見つけられた。#ケンが泥棒にあやまった。#幸い、マリが外の声で起きていた。#ケンが鍵を忘れることが分かった。(起きた) (CCM16 SW2 630 60)

(46) はピクニックに行った、そして犬がバスケットに入った、と事態の連続で表現する。(47) は警官に見つかった、泥棒と間違えられた、その声でマリが起きてきた、のように事態が連続する。

節の中でも「た」を使うことは同様である。

- (48) ×<K>そうですね、すごく印象に残っていたのは〈うん〉、やっぱり最近ある一映画を見ました、でも昔はやっぱり『一リットルの、なみ、涙』(印象に残ったのは) (CCT15 I 19250 1540)
- (49) ×ネットの利便性はもうよく分かっていたが、だんだん新聞などは必要だと思ってなった。(分かったが) (CG107 中国語 中級)

(48) は「印象に残った」、(49) は「分かるようになった」と変化を表すはずなので「わかった」を使うべきである。「ていた」を使う例は次のような場合である。

- (50) 何て言うかなー、遊園地かな#<C>はえー#<K>遊園地も、新しくなっていたのでー〈ふーん〉、すごくーおもしろっ面白くなっていましたねー〈へー〉昔はね、あのシンガポール人はあんまり、セントーサに行かないやはり (EAU18 I 27450 1100)
- (51) を持って楽しくピクニックに行きました#ですが、バスケットを開けたら中から犬が飛び出してきて、中に入っていたサンドイッチや果物も犬に食べられました (CCM51 ST1 840 60)

(48) (49) と (50) (51) を比較すると、(48) (49) は変化、(50) (51) は過去の状態であることが分かる。上の (49) を「わかっていた」で表現すると、例えば下の (52) のようになる。

- (52) ネットの利便性はわかっていたが、今回の新聞の報道に接して、新聞の必要性を強く感じた。(作例)

(52) は完了の文にすると落ち着く。つまり、過去の事態よりさらに前の時を「ていた」で表現するのである。そして「ていた」節と「た」節の間に状況の変化、時間的な切れ目が表現され

ると許容量が増す。(49)は「だんだん感じた」のような表現になっており、「ていた」節と「た」節の間に明確な切れ目が読み取りにくいいため、誤用と見えるのであろう。

完了については7.4で述べる。

## 7.2 連体修飾節中の形

上の「た」の問題は連体修飾節内でも起こる。

(53) ×犬がその時、外に走り出し、中にある食べ物を半分以上食べきってしまいました。

#犬ちゃんの満足していた表情を見ながら、仕方はなくて、食べ物のない一日のピクニックデーに過ごしました。(満足した表情)(CCT15 SW1 1600 50)

(54) ×フタを開けたら突然犬が飛び出しました。#そして、マリがお弁当見たら全部犬に食べられました。#困っていた二人が今からお弁当はないからどうしましょうか 悩みました。(困った二人)(JJN05 SW1 930 60)

(53)(54)は文末では「犬は満足していた」「二人は困っていた」と「ていた」の形になるが、それを連体修飾節内にいれると「た」が出現する。このような結果状態の「た」も使えるようになるという形である。

「ている」の誤用のところでも触れたが、「主文成立時を基準として以前」(日本語記述文法研究会2007)なので「た」という説明も可能である。

## 7.3 過去を「ていた」で表す動詞—特に思考動詞—

江田(2013)で過去を「ていた」で表す動詞群があるということに触れた(pp.128 - 130)。思考動詞・状態動詞・関係を表す動詞などである。これらの動詞では「た」は過去の変化、過去の状態は「ていた」で表現する。今回の例でどのようになっていたか、思考動詞の「思う」を例に、見てみよう。

(55) マリとケンがピクニックに行こうと思っていたので、ピクニックのところを地図で確認しに行きました。#ところが、ケンとマリは犬がいました。(EUS02 SW1 12 10)

(56) 最初日本語がやさしくみにつくと思っていたが、もっともっと難しくなる。(C G024 中国語 上級)

これらの例ではどちらも、「思う」ことが過去であるということが正しく表現されている。

(57) ×それはもう、夜十二時だったので、ケンさんは、どうしようかなと思っていた時に、警察さんに、電話をかけました#それで、警官さんが来てって、(思ってた電話しました)(EAU18 ST2 1010 40)

(58) ×梯子を使って家に入ろうと思いましたが、梯子を上がる時、警官がこれを見て、泥棒と思っていたケンに話しかけました。#マリはこれを聞いていたか起きて、出て警官に説

明して、ケンはお手助けしました。(泥棒と思って) (TTR56 SW2 640 20)

(57) はどうしようかと考え、一つ結論をだして警察に電話した、(58) は警官はケンを泥棒と思って話しかけた、ということが書かれている。ここでは一つの事態の結論を出したことになるため、「思って」となる。

(59) ×どの方法は外国語がうまくなりますか、私の考えに両面あります思っていた。一面は勉強の興味を育つ、他面は生活の中で活用する。(思う) (CG056 中国語 上級)

(59) は外国語が上達する方法について述べている。外国語学習法についてのこの人の考えを述べているので、筆者の考えを示す「る」つまり「思う」で十分であろう。

一方、(60) は正しい。

(60) 二人は、一緒に、ピクニックしに行って、着いたら、楽しくピクニックしよう思っていたが、「えーなんでピクニックの、す、なんで家で用意したピクニックの食べ物か、全部無くなったの?」と驚きました。(CCT18 ST1 850 50)

(60) は、ピクニックしようと思っていたが状況が変化した、と述べており、完了の文の条件に合っているため、この「思っていた」は正しい。

「思う」は過去の変化は「た」で、過去の状態は「思っていた」で表現する。「ていた」が安定するためには完了の文にするとよい。

#### 7.4 完了

江田 (2013) では完了の文が安定する条件として以下の5点をあげた (p.181)。

- 1) 話題の焦点が「た」節にあること。
- 2) 「ていた」節で表現されている状況と「た」節で表現される事態が状況の変化を示すものであること。「ていた」節から当然考えられる事態を「た」節で表現した場合は許容度が低くなる。
- 3) 「ていた」節と「た」節の間に時間的な切れ目が存在すること。
- 4) 「発見」の意味を含むこと。
- 5) 外部からの描写の文にすること。

学習者の文を見ながら上の条件について考えよう。

(61) インターンシップ、あのこ、こ、あの十二年、十す、二千十三年の夏、その二か月間のインターンシップをやっていたとも、もう話したんですが、〈はい〉あの私とその会社で、あの働くことになりました#<C>そうですかー (EUS02 I 62070 3080)

(62) その名前は、はい#<C>市場?何?何え、違うな#<K>んー、クリスマスの、あ、  
知っていたけど忘れてしまいました (FFR40 I 29560 2680)

(61) はインターンシップをやっていた、そして、その後その会社で働くことになった、(62) は知っていたけれど忘れた、のように、「ていた」節と「た」節の間で状況の変化が起きている。そして、時間的な切れ目も存在する。ということで、上の4つの条件を活用することで、「ていた」節の完了は作りやすくなるといえるであろう。

## 8 「る」の誤用

「る」になるのは習慣・繰り返しを表すもの、属性を表現するもの、一般的なことを述べるものである。作文コーパスでは一般論の誤用が多かった。

(63) ×できれば周囲の外国人と交流して、付き合っていたら、知らず知らずうちに、外国語が上手になっていた (CG026 中国語)

(63)' 外国人とつきあうと、外国語が上手になる。

(63) は一般的な語学の勉強の仕方述べている文章の一部である。自分の経験をのべているわけではない。一般論を述べる場合は、(63)'のように、「たら」より「と」の方が個別的な経験でない一般的な因果関係を表しやすい。そして「と」の文の前件の述語は「る」である。また、結果についても「上手になる」と「る」で表現することによって必然的な結果が表しやすくなる。

(64) ×これにしたがって、私たちの生活の中で新聞や雑誌が点めていた比率が大きく変わってきている。(KG121 韓国語)

(64)' 私たちの生活の中で新聞や雑誌の占める割合が大きく変わってきている。

(65) ×インターネットが速く発展していた今、いろいろな資料とエンフォーションは易しく手に入れる。そのため、もう新聞や雑誌はいらない、と言っていた人もいる。(CG121 中国語)

(65)' インターネットが発展する現在、もう新聞はいらないという人もいる。

(64) (65) は一般論を述べている。「生活の中で新聞が占めている割合」「発展している今」「言っている人」のように「ている」で表現することもできるが、論述文では(64)' (65)'のように「る」のほうがより適当な形と言える。

過去の文脈の中で物事を述べる場合、例が過去の場合などでは、学習者は過去にひかれて「ている」の過去を、と考えた可能性がある。しかし、一般的なことは時制に関わらない「る」で表現できた方がいいであろう。

## 9 「ている」の誤用

現状を表現する場合は「ている」であり、「ていた」を使う必要はない。

- (66) ×ツリーがあります#そのツリーは、倒れて、ツリー、上、ツリーの上の、りんごも、  
んー、落ちていた（落ちている）(JJC46 D 3620 140)
- (67) ×あの一ここに一皿も壊れていますねー#<C>うん#<K>ん、どこからこ、あの一  
こぼれていたみたいで#でええとその一あの一死んでいる人のそばに、ええと何か書いて  
ある一ええと紙がありますが、（こぼれている）(EUS14 D 2590 130)

しかし、過去の文脈がある場合、学習者は過去のことを考え、「ている」を「ていた」にした  
のではないかと類推される例もある。

- (68) ×大学に入ってから日本語を勉強していた、いもうまくなるのはまだ言えないけども、  
勉強の心界が色々迷っていた。(CG079 中国語)
- (68)' 大学に入ってから日本語を勉強している。勉強についていろいろ迷っている。
- (69) ×韓国人は日本語を勉強するのがほかの国のことばよりやさしいと思う 韓国語と日本  
語は、以ている点がたくさんあったからた。(中略) またかんじごのはつおんもほとんど  
以ていた。(KG001 韓国語)
- (69)' かんじごのはつおんもほとんど似ている。

(68) は大学に入ってから今まで日本語を勉強している学習者の文章である。途中迷っていた  
時期があった、と述べているところから、過去に迷ったことに意識がいき、日本語学習について  
も、過去の一定の時期までであるかのような表現になってしまったのであろう。しかし、この学  
習者の場合、現在も勉強を続けているので、(68)' のように「勉強している」と「ている」で表  
現するのが適当であろう。(69) も同様に、「韓国語と日本語は似ている点があった」と述べたた  
めに、「発音も似ている」と韓国語と日本語の性状を述べる「ている」を使うべきところで「て  
いた」と過去になってしまったのであろう。

従属節の状態性述語が主節のテンスと同化するという点ができていない誤用も見られた。

- (70) ×そうですね、すごく印象に残っていたのは〈うん〉、やっぱり最近ある一映画を見ま  
した、でも昔はやっぱり『一リットルの、なみ、涙』#（残っているのは）(CCT15 I  
19250 1540)
- (71) ×入りたいでした#でも、その時は警官が見ていました#警官が、あの彼は何をしてた  
と聞いていました#その後、ケン「あの私は鍵が持っていませんでした、（何をしてい  
ると聞きました）(CCT28 ST2 1260 70)

(70) (71) は学習者が、述べている内容は過去のことであると意識して「ていた」を使ってい  
た可能性もある。話の内容が過去、警官の質問は過去のことと考えたのであろう。これらは、状  
態述語の「る」は文末のテンスに同化し、「た」を使うのは文末の事態と時制上差がある場合、  
と説明されている（寺村1982）。(70) は「印象に残っているのは～だ」、(71) は「何をしている

と聞きました」で「ている」が過去の時制に一致できる。

結果状態にひかれた間違いかと類推される例も見受けられた。

- (72) ×後、着物一着ている人は一人います#バス停があります#肉屋と、カフェ店があります#後、倒れていた木が一個あります#後カップルが、ベンチに座っています#二人の子供は川で水を遊んでいます#（倒れている／倒れた）（CCT10 D 2780 310）

上の例は、「着ている」「座っている」「遊んでいる」と他の語はすべて「ている」で使っているのに「倒れている」だけは「ていた」になっている。「倒れた」と結果を表現したかったのかもしれない。これは「倒れている木」あるいは「倒れた木」になる。

## 10 固定化した活用形

学習者が使い慣れた活用形が固定化しているのではないと思われる文が見られる。これは正用が「る」「ている」「た」のどの形においても見られたので、別に節をたてる。

- (73) ×あの、例えばお、兄、兄がね免許？、運転＜C＞＜うんうん＞＜K＞その免許を持っていたとき、どこに、え、来たいですか？とか（免許を取った時）（EAU18 I 38940 1500）

- (74) ×ケンをマリは公園に届いたとき、散歩してきれいな景色を見た。#その時、お腹が空いていたので、座っている所を探した。#バスケットを開けた瞬間に、丸が突然飛んできた。（お腹がすいたので）（座るところ）（EAU18 SW1 1140 60）

「持つ」は初級では「持つ」「持たない」の形でなく「持っている」の形で教えられる教科書がある<sup>(1)</sup>。「お腹がすく」「座る」も、単語レベルでは辞書形も触れるであろうが、授業中は「○○さんはお腹がすいていますか」「いすに座っています」などのように「ている」の形で取り上げられる。その影響であろうか、他の活用形が使いにくいように見受けられる。上の文では「免許を取った時」「お腹がすいたので」「座るところ」としななければならない。活用形の固定化をほぐし、一つの活用形だけでなく、テンスもアスペクトもいろいろ使えるということは中級以降、学ばせなければならない。つまり、固定化が起きやすい語<sup>(2)</sup>は教師が意識的に様々な活用形に触れさせるようにしなければならないであろう。

## 11 まとめ

学習者の「ていた」の誤用をみてきた。

学習者が「ていた」を使う時に間違えるのは「た」が最も多く、続いて「ている」「る」の順である。

テキストによって誤用の種類は異なり、事態の連続を表現する文章では「た」との誤用、論述文では「る」との誤用が目立った。

誤用の原因は以下のようなものである。



- ・ まるごとの事態が使えず、事態の連続の「た」で表現すべきところを、過去の継続と考え「ていた」にする。
- ・ 文末ならば「ている」「ていた」になる形が連体修飾節内では「た」になるのが難しいようである。
- ・ 完了の形が使えれば正しい文になる例が見られた。完了の文が安定する条件を理解してもらうべきである。
- ・ 活用形を固定化して記憶していることによる誤用が見られた。

## 注

(1) 「持つ」の扱いを2種類の日本語教科書で見てみよう。

『みんなの日本語』では単語リストには「持つ」はなく、「もっていきます」「もってきます」と出ている。文型練習では第15課で「知っている」「結婚している」「住んでいる」の「ている」を学ぶ時、文型練習として、

- ・ 車を持っていますか
- ・ 自転車を持っていますか。

の文があげられている。

また、17課で「なければならない」を学ぶ文型練習で

- ・ パスポートを持っていかなければなりません。
- ・ あしたも保険証を持ってこなければなりません。

のように、「もってくる」「もっている」の形で提出されている。

『大地』では、13課の単語リストに「もつ」があげられており、文型練習では「ましょうか」のところで、「荷物を持ちましょうか」という文があがっている。

『大地』で学ぶ学習者は「持つ」という動詞は特に「ている」と共に使う、という印象は持たずにすむ可能性があるが、『みんなの日本語』で学ぶ場合、教師が気をつけなければ、学習者は「持つ」は多くの場合「持っている」「もってくる」「もっていく」のように「て」の形で使うと理解する可能性がある。

(2) 山形大学の黒沢晶子氏、筑波大学の堀恵子氏による指摘である。両氏は活用の固定化が起きやすい語として「持つ」「知る」をあげた。

## コーパス

迫田久美子他 I-JAS『多言語の日本語学習者横断コーパス』

[http://lsaj.ninjal.ac.jp/?page\\_id=81](http://lsaj.ninjal.ac.jp/?page_id=81)

李在鎬他『日本語学習者作文コーパス』<http://sakubun.jpn.org/corpus/main.py>

李在鎬他『タグ付きKYコーパス』<http://jhlee.sakura.ne.jp/kyc/>

## 参考文献

庵 功 雄 (2001 a) 「テイル形、テイタ形の意味の捉え方に関する一試案」『一橋大学留学生センター紀要』第4号

庵 功 雄 (2001 b) 『新しい日本語学入門』スリーエーネットワーク

- 許 夏 珮 (2000) 「自然発話における日本語学習者による「ている」の習得研究」『日本語教育』104号
- 許 夏 珮 (2005) 『日本語学習者によるアスペクトの習得』くろしお出版
- 金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」『言語研究』15 [採録：金田一春彦編 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房]
- 金田一春彦 (1955) 「日本語のテンスとアスペクト」『名古屋大学文学部研究論集』X (文学4) [採録：金田一春彦編 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房]
- 工藤真由美 (1982) 「シテイル形式の意味記述」『武蔵大学人文学会雑誌』第13巻第4号 武蔵大学人文学会
- 工藤真由美 (1989) 「現代日本語のパーフェクトをめぐって」『ことばの科学』3 むぎ書房
- 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 江田すみれ (2010) 「「ひとつ前の事態」を表す「ていた」の用法—接続節の中で「ていた」を使うために—」『台湾日本語文学報』25
- 江田すみれ (2010) 「「た」と動作継続の「ていた」の使い分け—時間幅と動詞の示す事柄の関係について—」『日本語教育方法研究会誌』Vol.17
- 江田すみれ (2011) 「完了の「ていた」の使用条件—「た」節と「ていた」節の関係—」『2011年度日本語教育学会秋季大会予稿集』pp.135-140
- 高梨信乃 (2014) 「上級学習者のテイル形使用にみられる問題点—文法指導の隙間—」『日本語／日本語教育研究』日本語／日本語教育研究会
- 高橋太郎 (1985) 『現代日本語動詞のアスペクトとテンス』秀英出版
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味』Ⅱ くろしお出版
- 日本語記述文法研究会 (2007) 『現代日本語文法3 アスペクト・テンス・肯否』くろしお出版
- 中石ゆうこ (2005) 「対のある自動詞・他動詞の第二言語習得研究—「つく—つける」「きまる—きめる」「かわる—かえる」の使用状況をもとに—」『日本語教育』124号 pp.23-32
- 藤城浩子 (1996) 「シテイタのもう一つの機能—感知の視点を表すシテイター—」『日本語教育』88号
- 町田 健 (1989) 『日本語の時制とアスペクト』アルク
- 山崎佳子・石井玲子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子 (2010) 『日本語初級①大地』スリーエーネットワーク
- (2016) 『みんなの日本語初級Ⅰ第2版 教え方の手引き』スリーエーネットワーク